

# 理事研修会を開催しました(6/9～11)

6月9日(金)～11(日)に4年ぶりに理事研修会を開催し、総勢10名で高知県四万十市の(株)四万十ドラマさんと徳島県那賀郡那賀町の(株)きとうむらさんを訪ねました。高知空港に降り立ち、まずは四万十ドラマさんへ。地域の資源を活かした、地域づくりに取り組まれていて、様々な賞も受賞されています。JASMEQでの取り扱い商品は、「塩キントン」や「焼きモンブラン」などです。

まずは今年パルスシステム環境委員会と一緒に小野と富永が植樹をした栗林を見に、沈下橋を渡って行きました。バスでは通れないので、睦地社長がピストンをして送って下さいました。柵がないので怖かったです。歩いて渡ってみました。栗は規則正しく植えられていました。

その後事務所に行き、従業員の皆様にご挨拶をしましたが、同じ敷地内にある工場はもう稼働が終わっていたので、窓の外から覗かせていただきました。近く「道の駅四万十とおわ」の食堂で、懇親と交流を深めました。四万十川を見下ろす絶好のロケーションです。以前は四万十ドラマさんが運営されていたようですが、今は子会社化をして(株)とおわさんが運営されているそうです。高知料理を堪能しました。食後はバスで2時間かけて戻り、高知市内に宿泊しました。



沈下橋



栗林



工場



四万十川をバックに

2日目はまた2時間かけて、きとうむらさんへ。ダムなどの大型公共事業に頼らない自立した地域経済を実現すべく、旧木頭川の第三セクターとしてスタートしましたが、現在は株の85%を地域住民が保有しているそうです。

JASMEQでは、木頭「山の湧水」を扱っています。また木頭柚子も有名で、様々な商品があります。説明の後で、いろいろと試食をさせていただき、お店で販売されている地域の特産品を沢山購入しました。昼食はきとうむらの皆さんとご一緒に、近くのカフェへ。この日は那賀川を見下ろしながらの食事と交流をしました。



きとうむらのお店



プレゼン



ランチ



いつもは15名程の研修会ですが、今回はキャンセルが相次ぎ10名と少なめでした。終了後にアンケートを実施し概ね好評でしたが、貸切バスのため費用が高めでしたので、参加者がもう少し多ければ良かったです。また移動距離も長かったので、こちらも次年度は考慮したいと思います。

協同組合 JASMEQ

第41号

発行日 2023/8/1

〒169-0072

東京都新宿区大久保2-3-4

出光新宿ビル 4F

Tel :03-6205-6677

Fax:03-6457-6759

最寄駅

副都心線 東新宿駅より徒歩5分

// 西早稲田駅より徒歩5分

発行責任者

専務理事

田中 久夫



## 理事会から (第19期)

(第19期)

第4回(2023年5月18日ハイブリッドによる開催)

第1号議案

パソコン入れ替え購入の件

パソコン3台の入れ替え購入の件について、全員一致で可決決定された。

財務状況、商品供給事業、品質・衛生管理サポート事業、一般業務等について、報告された。

第5回(2023年7月20日ハイブリッドによる開催)

第1号議案

「仕入販売管理システム」導入と予算の件

「仕入販売管理システム」を導入する件について検討し、選定するシステムは、次回理事会に提案すること、予算化は次年度の事業計画の中で行うこととし、全員一致で可決決定された。

財務状況、商品供給事業、品質・衛生管理サポート事業、一般業務等について、報告された。

◆次回第19期第6回の理事会は、2023年9月8日に開催予定です。

当組合の代表理事で、(株)カジノヤ代表取締役会長の梶俊夫が春の叙勲で「旭日双光章」を受章いたしました。7月29日には祝賀会が新百合ヶ丘のホテルモリノで開催され、JASMEQからも皆でお祝いに駆け付けました。

令和5年の春の叙勲で、永年に亘る納税功労に尽力されたとのことで、梶さんが「旭日双光章」を受章されました。おめでとうございます！

これからも益々のご健勝とご活躍を、期待しています。

また昔ながらの仲間たちが呼びかけ人となって、「梶俊夫さんの受章をお祝いする会」が開催されることになりました。そこで、JASMEQも協力することになり、梶さんを囲んで栄養をお祝いしたいと思います。

日程は9月27日(水)、JASMEQの総会が終わった後、同じ会館で開催される予定です。

お問い合わせはJASMEQ事務局・坂本までご連絡ください。



パンフレット

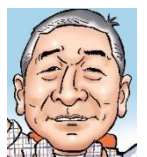


梶さんを囲んで

# 第39回WEBセミナー 「食品工場で見かける虫について 色々な視点で考えてみよう」を開催しました



監物



中村

- 日時:2023年7月6日(木)14:00~15:30
- テーマ:「食品工場で見かける虫について色々な視点で考えてみよう」
- 講師:イカリ消毒(株)技術サービス部  
一部:山本桃子主任 「なぜ工場で見かけるのか」「おさえておくべき虫の生態」  
二部:田畑篤部長代理 「具体的なチェックポイント」
- 参加者:37社・生協 74名

これまでの品質管理セミナーでは、管理者・衛生責任者を中心に行ってきました。今回は目線を変えて、製造作業に多くかかわる、現場で働く人や監督される管理者向けに、やさしく理解しやすい企画内容としました。防虫管理は、専門知識や長い経験が必要だと思われがちですが、工場食品を製造する従業員の活動で改善が進むことが多くあります。これから虫のシーズンが本格的に到来します。一度、色々な視点で、工場で問題になる虫について一緒に考える企画としました。

## <学習の概要>

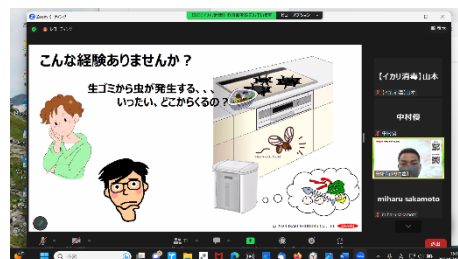
- 1、防虫防鼠対策のステップ:①虫を知る②現状把握(どんな虫がどんな所で捕れるのか)③対策(何をすべきなのか) 一つ一つの気づきが改善につながる!
- 2、生態のポイント ①食性(昆虫の餌)⇒幼虫の餌は発生源 ②生活史(幼虫になるまでの期間) 清掃サイクルの目安
- 3、ヘドロ汚れを食べる虫:①濡れた場所で良く見られる ②腐敗した物から発生 ③好みの汚れはさまざま、汚れ具合の指標(発生を抑制する清掃サイクルは約1週間)
- 4、カビを食べる虫:①カビやほこりを食べる ②とても小さい ③カビの生えやすい場所は要注意(湿気がたまる・温度差がある場所)
- 5、粉や穀物を食べる虫:①粉だまりや廃棄の穀物から発生 ②粉だまりは上にもたまる ③うねうねの線が見える粉溜まりは要注意(発生を抑制する清掃サイクルは約1ヶ月)
- 6、清掃で注意する目線:①鳥(高所かたの目) ②蟻(床面からの目) ③透視(物の中、裏を見る目)
- 7、排水トラップで注意すること:水が蒸発して少なくなると虫が侵入 ①きれいな水を溜めておく ②普段水を多用しないエリアの管理 重要なエリアは定期点検

## <アンケートの抜粋>

- 1、なるべくイメージしやすいよう、日常生活に置き換えた話を織り交ぜてくださったので、話がわかりやすかったです。
- 2、事例の画像(写真)が多く、わかりやすかったです。
- 3、混入の恐れのある虫の分類について、非常に理解しやすかったです。
- 4、今回は特に防虫対策について非常に勉強になりました。「幼虫が食べるもの」「成虫になるまでの期間」「工場内での虫侵入原因(外部から、内部から)」等、とても勉強になりました。お取引先様にも必要な情報を共有できればと思っております
- 5、虫によって好む場所、餌が違い、それによって対策がどのようにされているか、今後は自分の会社を違った目で見えます。  
編集後記:今後も、現場の方にも理解しやすい企画を提案していきます。



山本主任の「虫の生態」について



田畑部長代理の「具体的なチェックポイント」について



監物顧問

## おすすめ商品の紹介

ぜひご利用下さい(^\_-)☆



内山



焼きいもモンブラン 5個

### パルシステム【食楽広場】

四万十川流域で栽培された人参芋のモンブランクリームをたっぷり手絞りし、焼き上げました。



肉の片山・もちぶたの煮豚切り落とし 250g

### パルシステム【食楽広場】

「和豚もちぶた」をじっくり煮込んだ煮豚の切り落としをしっかりと味付け。ラーメンや炒め物、チャーハンなどいろいろな料理に。

(パルシステムカタログから転用しました)

## 時の話題 その21

### ChatGPT(チャットジーピーティー)について

話題の「ChatGPT」ですが、皆様は活用されていますか？

#### ChatGPT(チャットジーピーティー)とは

ChatGPTとは、サンフランシスコのOpenAI社が開発した大規模な自然言語処理モデルです。チャットボットの一つであるChatGPTは、大量のデータを学習し、入力に対して人間のようにな回答を生成します。

SiriやAmazon Echoのようなこれまでの対話型AIと比較すると、ChatGPTの対応範囲の広さや精度の高さは革新的であることから、世界中で大きな注目を集めています。

ChatGPTの魅力は、質問文を自然に理解し、違和感のない文章で返答する、精度の高いやりとりです。これまでのAI技術に見られた不自然な文章表現なく、より自然なやり取りができます。また、ChatGPTは多言語に対応しているだけでなくコードの生成も可能で、IT業界でも利用に注目が集まっています。

現在一般公開されているChatGPTはGPT-3.5ベースに構築されています。OpenAI社は更に高度化されたGPT-4を公開しました。様々な専門的及び学術的なベンチマークで人間レベルのパフォーマンスを示すといわれています。現在GPT4基盤のChat GPTは有料で利用できます。

#### ChatGPTの活用事例

##### カスタマーサポート

Chat GPTを利用して、自社製品やサービスに関する問い合わせに対応するカスタマーサポートを提供することができます。Chat GPTは24時間365日対応ができ、自動応答によって、短時間で顧客の問題を解決することができます。

##### 自動文章校正

Chat GPTは文章校正にも利用されています。コンテンツやビジネスメールなど、正確で分かりやすい文章が求められる場合に、誤字脱字や文法の間違いを検出・訂正することができます。これにより、ビジネスの場面でより正確な文章表現が可能となります。

##### 市場調査

ChatGPTを使って、業界の動向や市場推移といった業務を自動化することもできます。マーケティングの場面において、市場調査は重要な意味を持つタスクです。しかし市場調査は、大量の情報収集と処理を必要とする手間のかかる作業です。ChatGPTを使うことで、そうした手間のかかるリサーチ業務を自動化できます。

ChatGPTに「協同組合JASMEQが発展するためにはどうしたらよいですか？」と質問してみました。

- 1.普及と認知:** JASMEQとその提供するサービスについて、中小企業に対して認知度を高めることが大切です。中小企業の経営者や管理者を対象としたワークショップやセミナー、イベントを実施し、品質向上のメリットを積極的にアピールしましょう。
- 2.カスタマイズされた支援:** JASMEQのサポートを、個々の中小企業のニーズと課題に合わせてカスタマイズすることが重要です。個別のコンサルティングサービスを提供し、中小企業の改善に対する満足度を高めましょう。
- 3.協力とパートナーシップ:** 業界団体、政府機関、学術機関、その他関連する組織との協力を促進しましょう。これらのパートナーシップによって、より多様なリソースと専門知識にアクセスできるようになり、JASMEQの中小企業支援を強化できます。
- 4.研究と知識共有:** 中小企業向けの品質向上のベストプラクティスや市場動向、革新に関する研究を実施しましょう。これらの知見を出版物やウェビナーなどを通じて共有し、中小企業が最新の動向に対応できるようにサポートしましょう。
- 5.テクノロジーの導入:** 中小企業が品質向上のための最新のテクノロジーやツールを導入するよう促進しましょう。デジタルツールのトレーニングを提供し、中小企業が効率的かつ競争力のある事業運営を行えるようサポートします。
- 6.認証と認知:** 品質向上の取り組みを評価し、中小企業に認証プログラムや認知の仕組みを提供しましょう。これにより、中小企業の信頼性が向上し、品質向上に向けた動機づけを高めることができます。これらの戦略を実践することで、JASMEQは日本の中小規模企業の成長と成功に効果的に貢献し、競争の激しいグローバル市場での活躍を支援できるでしょう。

様々な角度からの回答が得られて驚きました。利便さで注目されていますが、利用者が増えるにしたがって、悪用の可能性も指摘されています。リスクもわかった上で活用したいですね。



坂本

第1回目はSBSゼンツウさんです

JASMEQ設立当初より賛助会員に加入していただいています、SBSゼンツウ株式会社さんですが、元々は(有)全通から(株)全通に改組し、2006年にSBSグループに参入し、2013年にはSBSゼンツウ(株)に社名変更いたしました。「個人宅への配達にも対応できる、きめの細かい配送ネットワーク」、「3温度帯の商品を一括で処理できる物流インフラ及び作業ノウハウ」、「長年の経験によって培われた品質管理力と特殊な流通加工にも対応できる高い技術力」を強みとし、全国に100カ所以上の事業所を構える食品物流に特化した創造物流企業です。2022年には本社を埼玉県戸田市から東京都新宿区に移し、全国の拠点も次々と増やしています。安定しながらも成長を続けている企業です。

<https://www.sbs-zentsu.co.jp/>

所在地：東京都新宿区  
 設立：1982年11月  
 代表者：池田 伸之  
 社員数：3,757名  
 事業内容：一般貨物、予冷低温輸送及び共同配送、個別宅配事業、各種商品の受発注業務代行及び仕入れ販売、貨物の荷受、保管、仕分け、ピッキング、包装、加工作業

章男の出張日記



小野

7/10(月)～11(火)  
 島根県大田市・(有)旭養鶏舎視察



工場の様子



7月10日島根県大田市と11日に益田市に行ってきました。全日までの集中豪雨でしたがおかげさまで到着後には天気が回復し助かりました。大田市で養鶏及び玉子加工商品を製造している(有)旭養鶏舎の玉子加工商品製造工房を視察しました。厚焼き玉子焼きとプリンがパルシステムさんに採用され、後者が8月3回企画からです。視察後に大田駅から益田駅への山陰線が倒木等の影響で不通のため、旭養鶏舎担当のJALまねの農畜産物部の方が益田市まで来るまで送っていただき本当に助かりました。翌11日は、益田市の広域担当の田丸さん柳井さんの案内で、JALまねの益田支所の担当者(トマトジュレ)、ゆずサイダーのエイト、津和野町の三松堂、長期保存用の缶詰パンを製造している特定非営利活動法人・地域支援センター よしかの里を訪問しました。



直売所



あさひプリン

編/集/後/記

ホームページ：<http://jasmeq.com/>  
 メールアドレス：[m.sakamoto@jasmeq.com](mailto:m.sakamoto@jasmeq.com)  
 TEL：03-6205-6677 FAX：03-6457-6759



監物

広報紙『JASMEQ』第41号をお届けします。  
 ホームページもぜひご覧ください。

軽米町エゴマ畑オーナー交流会に参加しました。

コロナ禍で2年間お休みでしたが、昨年秋から再開され、今年は7月21～23日に開催されました。

軽米のエゴマオーナーは15年程前から、岩手県軽米町との交流を目的に、パルシステム組合員が中心に始められた活動です。今では「クラウドファンディング」等と言われて珍しくありませんが、消費者と生産者が直接交流することで、地域産業を興すことにつながっています。今は健康食品ブームですが、あまり知られていなかった「エゴマ油」を通じた交流開発が進められてきたものです。貴重な国産エゴマですので、JASMEQとしてもパルシステムでの取り扱い努力をしているのですが、企画するのは難しいのが現状です。現在は「エゴマオーナー登録」をして、年に2回程エゴマ油を送ってもらいます。また、今回のように年1～2回の交流会を企画されています。

今回は、1日目は野中会長のエゴマ畑での勉強会と料理教室で使う葉摘み。2日目は軽米産の梅とブルーベリーでジャム作りと、エゴマの葉も使ったオープンサンド作り、午後からはラベンダーの香り袋作りと、語り部さんによる民話の時間(一部お昼寝?等)。昼食は山本町長から太陽光・風車発電事業等のお話をお聞きしたり、夜の交流会では生産者や地域で活動してる方々との交流が行われました。3日目は久慈・野田方面で最大のマンガン坑道見学や「ウニ丼定食」での昼食などを楽しみました。(監物)

